

## 2019年度 第2回地域スポーツ指導者養成研修会 (ACPブラッシュアップ研修会)の報告

### 理論と実技の一致を . . .



△理論を再研修しました

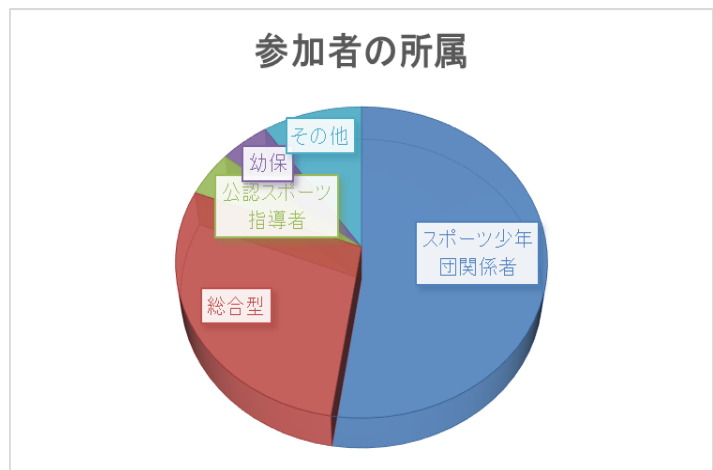
11月30日(土)、コラント山口を会場に、25人の参加者で、ACPブラッシュアップ研修会を開催しました。

講師は、6月のACP普及講習会と同様、東京学芸大学の佐藤准教授とJSPOスポーツ科学研究室の青野室長代理のお二人です。

#### 参加者の所属

参加された人の半数は、スポーツ少年団関係者でしたが、総合型地域スポーツクラブの関係者の割合が多くなっている傾向が見られました。

個別に話を伺うと、幼児期から運動にふれる子どもを増やしたいとの思いを持たれているとのことでした。スポーツ少年団が、キッズ・ジュニア期のスポーツや運動を提供する団体であるという認識に加えて、地域スポーツクラブを基盤にした組織が増えているように思えました。



#### 理論

講師の青野先生から、ACP理論についての講義がありました。

「子どもの身体活動の意義」「運動・スポーツ指導の実際」「ACP総合サイトの紹介・活用方法」などを講義されました。主な内容な次のようなことでした。

○ACP＝運動遊びではなく、運動遊びの必要性を重視して指導していくことを大切にしたい。理論的な根拠に基づいて子どもたちと接していくことが必要であり、すなわち、理論と実技の一致が必要となる。

○動きの質が低下している実態から、今の子どもたちには基礎的動きの習得が求められる。このことは、スポーツ環境だけではなく、好ましい生活習慣を身につけることにも大きくかかわってくる。

○キッズ・ジュニア期の指導にあたっては、子どもの発達特性を理解し、「できることがよいという価値観を押し付けないこと」で、より多くの幼児が運動をしていく環境が生まれてくる。

#### 実技

佐藤先生の指導で、アイスブレイキング・新聞紙を使った遊び・鬼遊びの3分野のみに絞って、次のグループワーク・模擬指導につながるような実技講習会となりました。

アイスブレイキングでは、「体ジャンケン」「キャッチ」「大根抜き」の3つの遊びをしながら、アレンジの仕方や指導のねらいなどを学びました。

新聞紙では、「新聞ジャンケン」「爆弾ゲーム」などを鬼遊びでは「ことろ」「ねずみ逃がし」などを中心に、人数やルールの変化を持たせることの面白さを体感することができました。

指導案の作成については、その作成意義について、次のような内容での講義がありました。

- 指導に、目標と内容と方法の一貫性が求められる。
  - ・どのようなスキルを習得させたいのか（目標）
  - ・そのためには、どのような練習(運動遊び)がいるのか（内容）
  - ・どのような方法で実施すれば、目標に迫れるのか（方法）
- その指導を行う意図や価値があるのか（哲学）
- 哲学に向かって実践を進める。
- 評価とは、哲学に向かっているかで診断し、その結果を哲学にフィードバックしていく。



△ 新聞ジャンケン



△ 指導案づくり

### グループワーク・模擬指導

理論と実技の指導を受け、受講者は3人～4人のグループを作り、指導案を作成し、グループごとに発表し、講師と一緒にふりかえる模擬指導の時間を持ちました。

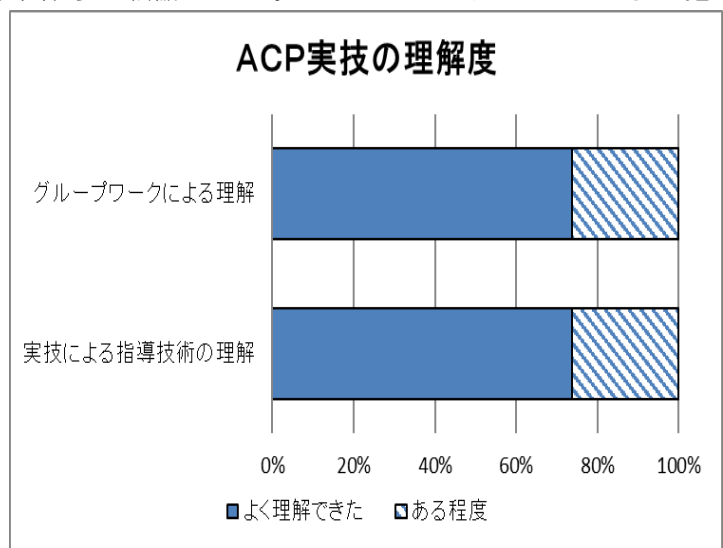
模擬指導は、「ねらい」「対象」「人数」「時期」などを想定し、指導者役・子ども役に分かれて、「アイスブレーキング」「新聞紙」「鬼遊び」の3つのいずれかで行いました。

講師の先生から、良かった点をたくさん紹介していただきました。

### 受講者の感想（グループワーク）

グループワークについての感想では、少人数のグループでの話し合いが効果的であったようです。受講者の簡素を紹介します。

- 理解はしているつもりでも、実技になると言い忘れていたこともあり、難しさを感じた。講師の先生に良さを引き出していただき、勉強になりました。他のグループの発表も参考になりました。
- 今まで実践はあまりなかったので、指導案作りは新鮮でした。グループの人がとても上手に指導されることも楽しかったです。子どもの前で実践したいと思いました。
- 指導案を書いていくことで、わかりやすく整理することができました。3人で話し合いながら指導案を作成できてよかったです。
- 指導案を考えて実践すると「ねらい」の部分のでき・ふできを振り返ることができ、次に活かすことできるので活用したいです。
- グループづくりや次の活動へのつなぎ方の工夫が参考になりました。つい説明してしまう癖をこの体験を通して気づけることができました。



## 受講者の感想（研修会）



△ 指導案づくり

- 子どもたちだけでなく、親子でも楽しめる内容がたくさんあり、参考になりました。
- 普及講習会と同じ内容があったので、異なる内容を入れてもらえると嬉しかったです。グループワークでいろいろな考えにふれ、自分の考えにも幅ができました。
- 県の東部と西部でも開催していただければ、参加しやすいと思います。
- 県内のいろいろな地域で実施していただいていると思うが、回数が増えるともっとよいのではないのでしょうか。

## まとめ

「みなさんが真剣に指導案作りをされている様子が見えました」「山口県内の人だけでも十分に研修できる人材が育っていますね」など、講師のお二人から、質の高い研修会であると評価していただきました。

ACPに限らず、スポーツの指導は、理論も実技も一体となった指導であることが望まれます。スポーツ界における指導者の養成システムが改正され、とりわけ、スポーツ少年団指導者も公認スポーツ指導者として、学び続けることが求められるようになりました。

これからは、「ボランティア」を理由にして学ばなかった指導者が一掃され、スポーツの楽しさを子どもたちと一緒に求めていく指導者と団員の姿がクローズアップされていくはずです。

ACPというツールを使って、幼児期からの運動遊び経験を提供し、運動が苦手だったり、嫌いだったりする子どもを一人でもなくしていこうとする動きこそ、スポーツ少年団の役割と言えます。

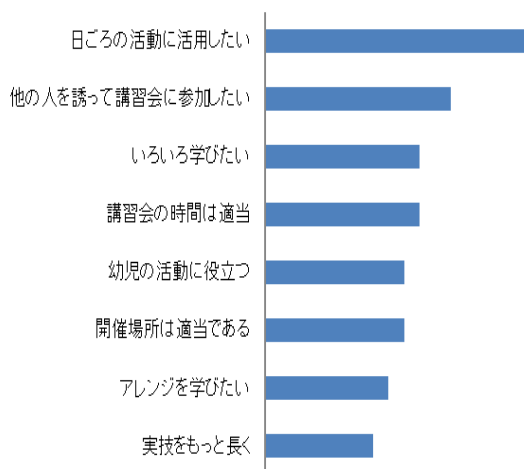


△ 合図を決めると…

研修会を終えて、受講者からの感想は次のようでした。

- 競技ばかりに力を入れる活動に疑問を感じていたときに、ACPを知りました。少しずつですが、体を動かすことの楽しさを子どもたちに伝えていきたいです。
- 子どもたちだけでなく、親子でも楽しめる内容がたくさんあり、参考になりました。
- 昔は、遊びを教わることなく、自分たちで工夫し考えて行っていたことを伝えていく必要性を感じました。

## 講習会に参加した感想



山口県スポーツ少年団本部として、これからも、ACPなどのプログラムを通して、「スポーツで子どもたちの未来をつくろう」の実現に向けた様々な事業を展開していく予定です。

そして、受講された皆様が各地域で実践されることも応援してまいります。

（文責：山口県体育協会  
生涯スポーツグループ）